Front page

メンター制度で新人薬剤師をサポートする

長崎大学病院
（長崎県長崎市）

メンターという言葉をご存知だろうか。仕事や人生に関する助言者，指導者のことで，メンティー（教わる側）からの相談に乗ったりアドバイスしたりする役割を担う。上司・部下という関係ではなく先輩・後輩の関係に近い。医学教育では人材育成の一環としてメンター制度が盛んに取り入れられているが，長崎大学病院では2012年度から新人薬剤師を対象にメンター制度を導入。メンティーの職場での悩みや問題解決をサポートすることに力を入れている。

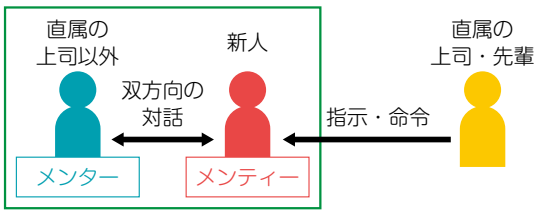
メンター制度について話し合う教育ワーキンググループ

長崎大学病院

複数のメンターで複数のメンティーを支える

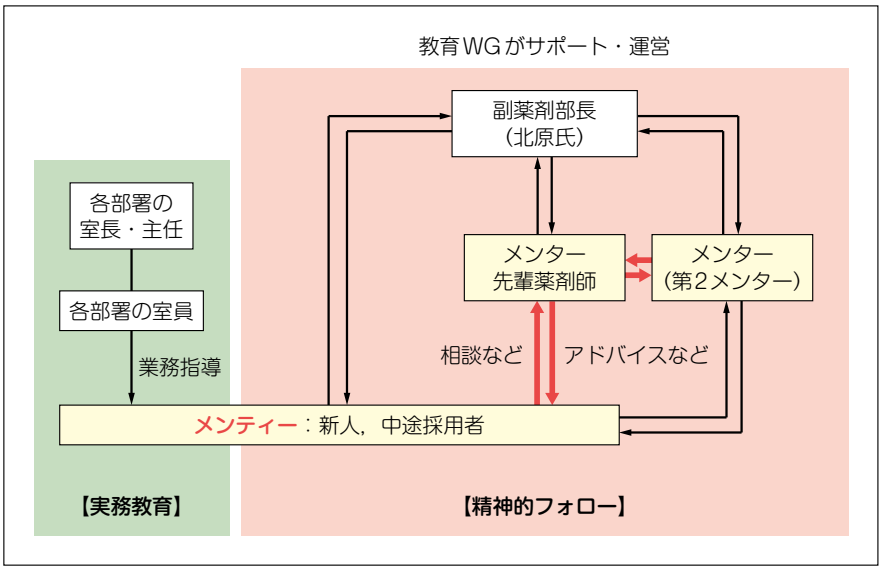
大学を卒業して社会に入り，仕事の難しさに加えて環境の変化に適応できず悩みを抱えてしまう――そうなる前に気軽に相談できる良き先輩がメンターだ。似た言葉に，主に看護教育で導入されているプリセプター（教える側）・プリセプティーがあるが，プリセプターがもっぱら業務に関連した指導を行うのに対し，メンターは業務以外の相談にも積極的に乗るという違いがあるとされる（施設によって異なる場合もある）。

一般の企業でも導入されているメンター制度。長崎大



豊富な知識と職業経験をもつ先輩（メンター）は，後輩（メンティー）に対して，キャリア形成上の課題解決を援助し成長を支えるとともに，職場内での悩みや問題解決をサポートする。

メンター・メンティーの関係



長崎大学病院薬剤部のメンター制度（2015年度の仕組み）

学病院では以前から研修医教育に取り入れられており，薬剤部でも新人薬剤師の精神的サポートを目的に2012年度に導入した。2012年度は新人薬剤師8名がメンティーとなり，メンティー1人に対してメンター2人がつく個別対応型で実施。メンターは，副薬剤部長の北原隆志氏から指名された薬剤師8人（メンティーと同部署）と，メンティー自ら指名した他部署の薬剤師8人で構成された。翌2013年度からは数名のメンターで数名のメンティーを支えるグループ型に変更して実施している。

メンティーが気軽に話せる関係づくりが大切

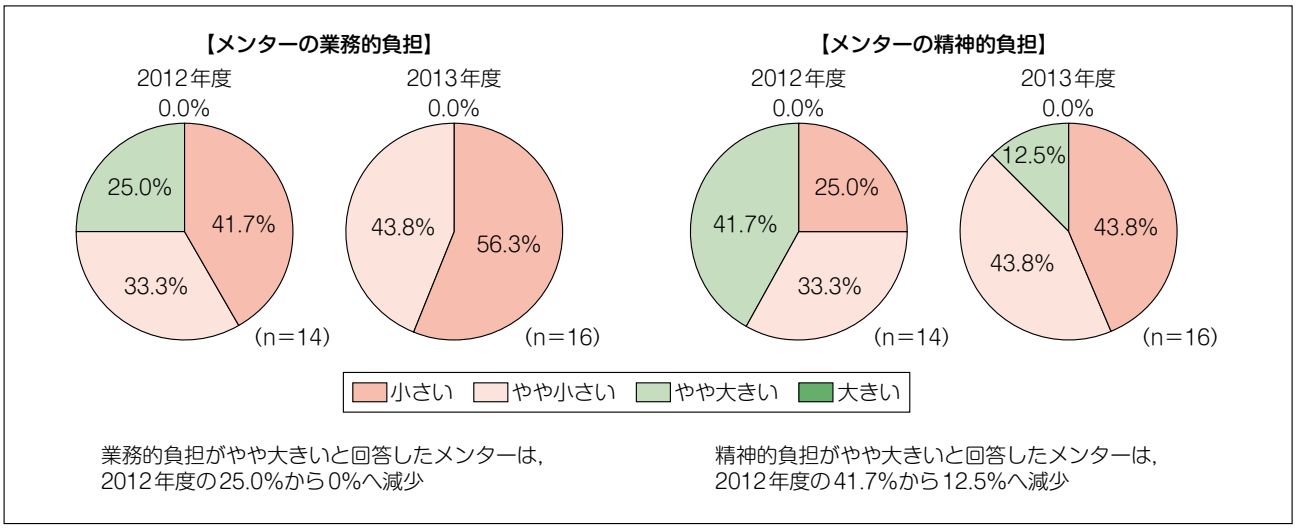
メンター制度について北原氏は，「当院を含め，6年制教育を受けた薬剤師は即戦力を求められがち。確かに実務実習は経験しているが，実際には入職してすぐ一人前にこなせるほど仕事は甘くない。そのため精神的ストレスを感じる機会も増えている可能性があり，それを解消する仕組みづくりが必要」と話す。初めての試みでもあり毎年試行錯誤しながら進めてきたが，今年で4年目に入り制度の必要性は薬剤部内で理解されているという。

薬剤部では若手からの提案やボトムアップ型の業務改善を期待して，さまざまなテーマのワーキンググループ（WG）を設けており，そのうち教育WGがメンター制度の運営を担っている。WGの一人である山下祐未氏は自らもメンティーを経験しており，「新人だと相談相手を見つけられるとは限らないので，メンターの存在は仕事でもプライベートでも心強かった。当院は大学病院のため薬剤部も複数の部署に分かれているが，こういう制度があると他部署の薬剤師とも交流しやすい」と語る。WGからは，メンターになってもらう薬剤師に「定期的にメンティーに声をかけてほしい」，「気軽に話せる関係づくりを」と伝えている。

メンターの精神的負担を考慮しグループ型に

教育WGではメンター，メンティーへのアンケート調査や聴き取りなどをもとに毎年制度の見直しを検討してきた。2012年度の個別対応型を翌年グループ型に変えた背景について，WGのリーダーである安藝敬生氏は「制度自体はメンター・メンティー双方から好評だったが，メ

（左から）北原氏，山下氏，安藝氏



メンターに対するアンケート調査（2012年度と2013年度の比較）

ンターの精神的負担やメンター間の情報共有不足が浮かび上がった」と話す。メンターが受ける相談は仕事のことに限らないため必ずしも正解があるわけではなく，はたして自分のアドバイスが適切だったのか悩む場面が少なからずあったそうだ。また，1対1の対応だと2人の間の情報が外部に伝わりづらく，関係がうまく構築されているのかどうか第三者には把握しづらいという懸念もあったため，メンターの負担軽減と情報共有を目指してグループ型にした。メンターに行ったアンケート調査をみると，業務上の負担と精神的負担ともに2012年度に比べ2013年度で改善しており，「どちらの体制がよかったか」との問いにも8割のメンターが2013年度のほうがよいと答えたことから，グループ型への変更が功を奏したことがうかがわれる。

2015年度からはさらに，グループ型を維持しつつ，メンターを「(直接の) メンター」と「第2メンター」に分けた。第2メンターがメンティーと話すこともあるが，メンター・メンティーの関係をサポートしたりメンターからの相談に乗ったりと，バックアップが主な役割になっている。

メンターの経験はメンター自身も育てる

WGがいま苦労しているのがメンター・メンティーの組み合わせだ。現在はWGがすべてのメンターを選んで依頼する形をとっているが，メンティーが気軽に話せることが大切であるため，年齢が近い2〜3年目の薬剤師を選ぶようにしている。しかし，精神的サポートが制度の

アンケート調査で寄せられたメンティーの意見（抜粋）

- いざというときに頼りにすることができる
- 誰か相談できる人がいると思うと心強い
- 1年目で慣れない時期に相談相手がいるのは心強いと思う
- 頼りたいとき，頼れる人として認識できる人がいたほうがよい
- 部署が違っても変わらず相談できる先輩がいると頼りやすくて助かる
- 業務に関する悩みやその解決法について相談できる
- 入って最初のうちは誰に質問すればよいかわからないこともある
- メンターの先生のおかげでプライベートで職場の方とお話しする機会が増え，仕事も取り組みやすくなったと思う

同じグループ内のメンティーについて情報交換するメンター

メンティーの声
濱崎久司氏（1年目）（写真左）

いまは薬務管理室の担当で，医薬品の購入やロット番号・期限のチェック，電子カルテで利用する医薬品マスタの作成などを行っています。メンターは門田先生で，第2メンターが宮永先生と川鍋先生です。宮永先生，川鍋先生は病棟担当であることもあって，いまは頻繁に会う機会がないのですが，門田先生とはほとんど毎日会います。といっても具体的に時間を決めているわけではなく，院内ですれ違ったときに話をするような感じですね。私自身があまり悩みを抱えていないので，プライベートの悩みを相談するようなことはないですが，他愛のない話をしたり，ときどき飲みに連れて行っていただいたりします。門田先生が昨年まで薬務管理室にいたので，仕事でわからないことも聞いたりします。やはり他の先生よりも気軽で話しやすいですね。

プライベートで食事した際の写真

メンターの声
門田善法氏（2年目）（写真右）

昨年はメンティーとしてメンターの先生にとてもお世話になったので，今年自分がメンターをするよう言われたときも違和感はありませんでした。2年目になると自分の仕事についてはそれなりにこなせてしまうので，言葉は悪いですが適当に流すこともできてしまいます。しかし，メンターを任されることで「相談されるからにはしっかりしなくては」という気にもなるので，私のほうが学ぶところが多いかもしれません。濱崎先生とはあまり仕事の話はしなくて，本当に他愛のないことを話しています。彼は思うことがあれば言ってきてくれますが，新人には思っていることを素直に言えない人もいるでしょうから，メンター制度があるのはとても良いことだと感じています。「困ったらこの人に聞きなさい」と指名してくれるので，新人も聞きやすいはずです。

主目的とはいえ，メンティーが担当している業務に不案内な薬剤師をメンターにするとメンティーの悩みをきちんと理解できない恐れもあるため，「以前その業務を担当していたが，いまは他部署にいる薬剤師」をメンターにするようにしている。さらに男性ならでは，女性ならではの悩みにも応じられるよう性別も考慮する必要がある。こうした複数の条件を加味して組み合わせをつくるのが一苦労だと安藝氏，山下氏とも口をそろえる。

それでも制度が定着してきたことで，「今年のメンターは全員が以前のメンティー。自分も恩恵を受けたので，メンターになるのを嫌がる人はいなかった」（安藝氏）と，好循環が生まれつつある。北原氏も「これは制度の目的ではないが，人の悩みや相談をしっかり聞くことはメンター自身の成長にもなる。メンターの経験はコミュニケーション能力の向上につながり日常業務にも活きるはずだ」と話す。薬剤部では今後もWGを中心に，制度をより良いものにしていこうと考えている。

第２メンターの声
宮永　圭氏（8年目）（写真左）

門田先生など同じグループのメンターと情報交換しつつ，メンティーと会った際には直接声をかけるようにしています。これは違うグループのメンティーに対してもそうですが，最近帰りが遅かったり元気がないように見えたら声をかけたりメンターに伝えたりしています。以前のような個別対応型だと相性というか，なかなか話しづらいメンティーもいたかもしれないので，グループ型になり相談できる相手が増えたのは良いことではないかと思います。これはグループによるのかもしれませんが，いまのところ負担も感じていません。

同じグループの３人（右は門田氏）

第２メンターの声
川鍋早紀氏（4年目）（写真中央）

同じグループのメンター・メンティーで飲み会をすることもあって，仕事はきちんとしつつも和気あいあいとやっています。私も宮永先生と同じく，相談できる先が増えたのはメンティーにとってプラスだと思います。これから新人薬剤師は病棟の研修が始まるのですが，私も宮永先生も病棟担当で，メンティーと直接関わる機会が増えます。新人薬剤師は学生時代の実務実習を除くと病棟に行ったことがないですから，実務だけでなく，患者さんや医師・看護師との関わり方などさまざまな面でサポートできることも多いと考えています。